

B分科会

「いじめ・不登校はなくせるのか？」

分科会記録

参加中学生 13人

板野中学校 2人, 応神中学校 2人

大麻中学校 4人, 名和中学校 5人

司会・報告 大麻中学校

担当教員 明石(大麻中)

■自己紹介

■「いじめとは何か」について中心的に話し合う。

- ・無視, 仲間外し
- ・一番大きな人権侵害
- ・嫌なあだ名を付けられる
- ・黙って見ている人もいじめている。
- ・直接言わなくても陰で言えばいじめ。

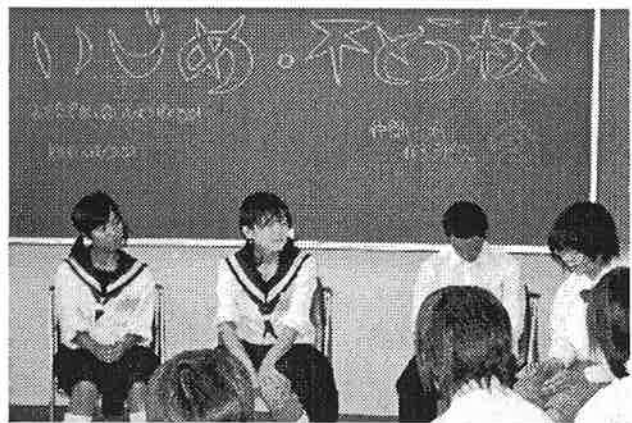


■「いじめられる側にも問題がある」という意見についてどうか？

- ・最初はそのことに同意している者も多かったが, 話し合いを進めるうちに, 「いじめられる側に問題はない」「いじめる側が改めなければならない」という考え方に変わった。

■学校内の人間関係についてはどうか？

- ・力関係がグループの構成に影響を及ぼしている。
- ・当初は, 力の弱い者(自己主張がしっかりできない者, 部活動で能力が十分に発揮できていない者)が, 力の強い者(はっきりと意見が言える者, 部活動で能力が高い者)についていく傾向があったが, そうした関係性の中で実質的な結びつきは薄れていくことが多い。
- ・力関係がある中で悪口を止めることはできないが, 自分から進んで言うことはしない。



※午後から

■いじめに関して傍観者的立場をとる人が多い。いじめを他人事としてではなく, 我が事としてとらえるためにはどうすればよいか。いじめをなくすために, 自分にできることは何か。

- ・いじめられる側としては同情はいらない。いじめを止めてほしい。自分がいじめられたらどうかを想定して考えてほしい。
- ・少しでもいいから話しかけてほしい。

■不登校について, 不登校生の立場からどうか？

- ・教師の心ない一言で傷つき, 不登校になったことがある。

- ・学校に行けない理由は聞いてほしくない。ふつうに話しかけてほしい。「つらいのはあなただけではない」という言葉は傷つく。

■不登校について、不登校生とかかわる立場からどうか？

- ・不登校の友達が学校に来られない理由について深く考えたことがなかった。
- ・不登校生の友達が来られるように手紙を書いたり、家に行ったりと、いろいろな工夫をした。結局は行事に2回来ただけで卒業を迎えてしまったが、その子と関わったことは良かった。そのことでクラスが一つになれた気がする。

■いじめ・不登校はなくせるか？

- ・なくならない。なぜなら、いじめをしていた人たちの人権意識を変えていくことはとても難しいから。
- ・道徳、人権学習の時間をもっと増やしてほしい。
- ・自分たちにもっと関係のある資料を使ってほしい。
- ・生徒も道徳の授業にもっと真剣に取り組むべきだ。
- ・教師も生徒に答えを求めるばかりではなく、自分のことを語ってほしい。
- ・まず、自分から変わっていこう。少なくとも中学生集会に集まった仲間達は人権に対して前向きに考えている。いじめや不登校はなくしていきたいと思っている。
- ・人権についてしっかり学び、考えておかないと、何が正しく何が間違いであるか分からない。最初、いじめられる側にも問題があるという意見があったが、正しく知っていなければ気づくこともできない。

■今日、参加しての感想。

- ・話し合えた。
- ・自分の意見が言えた。
- ・いろんな意見が聞けたことが良かった。
- ・ここにいる仲間だけでも本当の仲間になり、絆を深めて、人権を大切にできる集団になろう。その集団が少しでも大きくなるように、自分にできることは何か考えよう。

